

数学科 (数学A) 学習指導案						
日時	令和7年6月11日 (水)		2限目	授業者	浅井 瑞貴	
学年・組	2年2組	教室	L L 教室		教科書	最新数学A (数研出版)
単元	場合の数と確率			内容のまとめ	確率	
単元の目標	1	具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。		指導計画	1	確率の意味、計算、基本性質・・・1時間
	2	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。			2	和事象の確率・・・・・・・・・・1時間
	3	独立な試行や条件付き確率の意味を理解し、求めることができる。			3	余事象の確率・・・・・・・・・・1時間
					4	独立な試行の確率・・・・・・・・・・1時間
					5	反復試行の確率・・・・・・・・・・1時間
					6	条件付き確率・・・・・・・・・・1時間
					7	期待値・・・・・・・・・・1時間 (本時はその1時間目)
単元の評価規準	知識・技能	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。				
	思考・判断・表現	確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。				
	主体的に学習に取り組む態度	問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。				

本時の指導

主題 (教材)	期待値					
前時の課題	教科書P52、53の予習を実施し、これまでの学習内容を確認しておく。					
本時の目標	期待値を求めることができる。					
評価規準	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて期待値を求めることができる。(知・技)					
指導過程	学習活動	時間	指導上の留意事項	評価方法、資料等		
	導入	本時の目標を確認する。	5	・本時の目標を明確に伝え、学習意欲を向上させる。	・プロジェクタ ・ワークシート	
	展開	1 期待値の概念を理解する。 (1) サイコロを投げる2つの条件から、どちらが儲かりやすいか班で考える。 (2) 班で実践する。 (3) クラスで共有する。	20	・どちらかに偏らないように問題を作成することで、理解を深めさせる。 ・実際にサイコロを使うことで、興味・関心を高めさせる。	・プロジェクタ ・ワークシート ・サイコロ ・Teams	
	閉	2 期待値の求め方を理解する。 (1) 期待値とは何かを理解する。 (2) 計算方法を理解する。 (3) 2つの条件の期待値を計算する。	20	・期待値の値による損得を理解させる。 ・2つの条件の確率が間違っていないか、確認させる。	【評価方法】 ○期待値を計算することができる。(知・技)	
整理	本時のまとめを行う。	5	・本時の目標を達成できたか確認させる。	・プロジェクタ ・ワークシート		
備考	流通経済科 生徒数38名					